

CSJ Annual Report  
2023

日本化学会アニュアルレポート

# 目次

Top Message … 01

日本化学会中長期基本戦略（2020 年～ 2025 年） … 02

2022年度活動 pick up・2023年度活動方針 … 03

春季年会・CSJ 化学フェスタ … 04

講演会・講習会・実験教室の開催 … 06

キャリア支援 … 08

化学を広める・未来の化学者を育てる … 10

出版 … 13

論文誌 … 14

グローバリゼーション … 16

表彰事業 … 17

社会に向けた様々な取り組み … 18

企業・団体からのご支援 … 20

化学会概要 … 22

会計報告 … 24

ノーベル賞受賞会員

## 日本化学会とは

日本化学会は、化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し、交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は、産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することにあります。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



日本化学会は SDGs を推進した活動を心がけています

## Top Message

——世界の化学会を目指して



### 化学トランスフォーメーション (ChemX) を 促進する日本化学会

新型コロナ・パンデミックがほぼ終息を迎え、ようやく通常の生活が戻りつつある。3年以上にわたるアブノーマルな自粛生活は、我々の生活に多くの変化をもたらしたが、もとに戻るものもあれば、このままニューノーマルとして維持されることもあるだろう。例えば、会議の開催形式が挙げられる。コロナ前は会議といえば対面形式であったが、現在はリモート会議も当たり前のように使われるようになり、シーンに合わせて自在に使い分けることができる。日本化学会も、学術集会、いわゆる春季年会を4年ぶりに対面でおこなった。まだ、コロナウイルスが5類感染症になる前に開催されたため、マスクを装着することを推奨した対面集会であったが、アンケートからも80%を超える参加者が対面集会を評価し、来年度の年会も対面参加することを表明している。日本化学会としても、年会を含めた様々な集会において、学生を含めた若いアカデミア会員から産業界に身を置く会員にいたるまで、すべての日本化学会会員にとってより魅力的な集会の場になるよう目指していくことを約束したい。

一方、日本化学会のミッションのひとつは社会貢

献する公益社団法人であり続けることである。人類にとっての長期的な課題は、炭素循環を目指したサステイナブルな社会に貢献し、地球環境に負荷をかけない新しい化学を創造していくことである。この課題は数年ではなく、30年、あるいはそれ以上に及ぶ長期課題であり、「化学トランスフォーメーション (ChemX)」とも言える。これまで、アカデミアの研究者の創出した成果を産業側の研究者が拾い上げ、使えるものを産業化する、あるいは産業化できるように変えていく、というスキームが一般的であった。しかし、これはスピード感に欠ける。ChemXを強力に加速するには、アカデミアと産業側の化学者が互いに手を組み、対話を深め、長期的な課題に向かって互いの研究の相乗効果を狙うべきである。その触媒となる役割を日本化学会ができればと考えている。

公益社団法人日本化学会 会長  
東京大学理学部化学科

菅 裕明

# 日本化学会中長期基本戦略

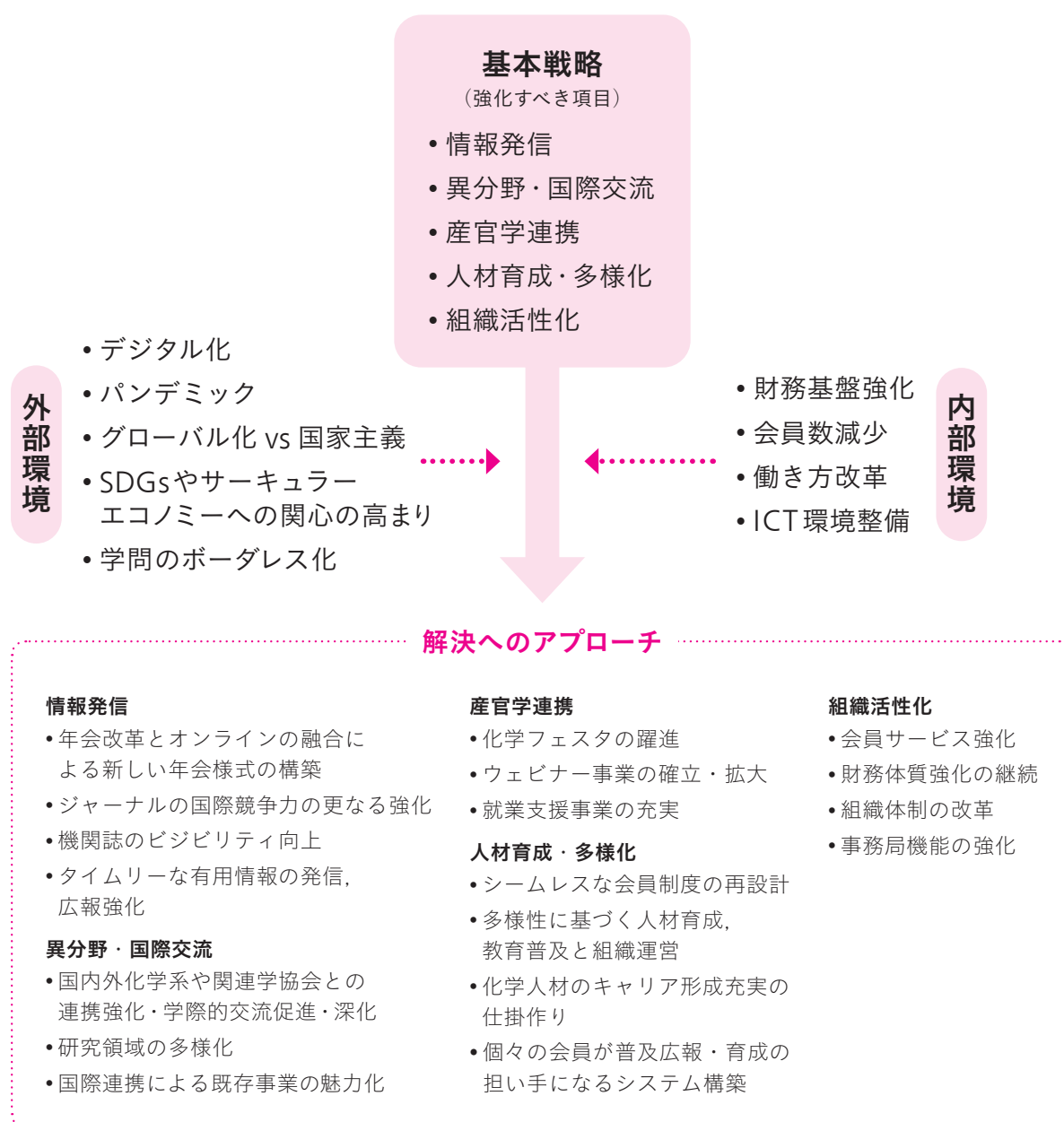
(2020～2025年)

## 基本理念

日本化学会は、産官学の化学に関わる会員により構成され、世界を先導する研究および技術開発による基礎科学の発展ならびに社会実装を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

## 基本理念から導かれる 基本戦略

### 基礎科学の発展／社会実装の実現



# 2022年度活動 pick up・ 2023年度活動方針

## 2022年度活動 pick up

2022年度は様々なイベントの対面開催が徐々に増え、秋の「CSJ 化学フェスタ」も3年ぶりの対面開催を実現する事ができました。一方、国際化学オリンピック中国大会はリモート開催となりましたが、日本代表生徒4人全員が金メダルを獲得しました。2003年の初参加から20年目にしての快挙です。



国際化学オリンピック日本代表



おもしろワクワク化学の世界'22 愛媛化学展

## 2023年度活動方針

| 中長期基本戦略<br>強化すべき項目 | 解決へのアプローチ                                                                                                                                                                | 2023 年活動方針                                                                                                                                                                                                |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 情報発信               | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年会改革とオンラインの融合による新しい年会様式の構築</li> <li>• ジャーナルの国際競争力の更なる強化</li> <li>• 機関誌のビジビリティ向上</li> <li>• タイムリーな有用情報の発信、広報強化</li> </ul>        | 現地開催となる103年会の実施およびハイブリット企画の施行<br>海外出版社協業へのスムーズな移行、協業による効率化とマーケティング強化<br>科研費獲得による国際競争力強化<br>機関誌プロモーションの強化と多角化によるビジビリティの向上<br>徹底した情報発信強化による会員サービスの充実・促進<br>メール配信のさらなる充実化、情報発信チャネルの多角化、公開記事のデジタル化促進による情報発信強化 |
| 異分野・国際交流           | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 国内外化学系や関連学会との連携強化</li> <li>• 学際的交流促進・深化</li> <li>• 研究領域の多様化</li> <li>• 国際連携による既存事業の魅力化</li> </ul>                               | 関連学会との連携強化の継続<br>Pacifichem：2025年に向けた新体制の発足と準備検討<br>CS3：5カ国化学会+各国研究助成団体による国際連携サミットの主催実施<br>国際交流イベントの企画・実施（日英／日台）<br>ACS、RSCとの顕彰事業等を通じた国際認知度向上の施策促進<br>IUPAC、FACS等の国際連携を通じた国際的存在感の強化                       |
| 産官学連携              | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 化学フェスタの躍進</li> <li>• ウェビナー事業の確立・拡大</li> <li>• 就業支援事業の充実</li> </ul>                                                              | CSJ化学フェスタの持続的運営と収益改善<br>財務体質強化を目指した新規事業創出の実施<br>ウェビナー事業の推進<br>就業支援事業の連携強化                                                                                                                                 |
| 人材育成・多様化           | <ul style="list-style-type: none"> <li>• シームレスな会員制度の再設計</li> <li>• 多様性に基づく人材育成、教育普及と組織運営</li> <li>• 化学人材のキャリア形成充実の仕掛け作り</li> <li>• 個々の会員が普及広報・育成の担い手になるシステム構築</li> </ul> | 学生会員から正会員への移行措置の検討<br>人材の多様性に関する課題を踏まえたイベントの実行<br>化学会ウェブサイト、ウェビナー、SNSを活用したキャリア形成に役立つコンテンツの継続実施                                                                                                            |
| 組織活性化              | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 会員サービス強化</li> <li>• 財務体質強化の継続</li> <li>• 組織体制の改革</li> <li>• 事務局機能の強化</li> </ul>                                                 | 会員サービス向上と組織的な会員維持への対応（個人会員、法人会員）<br>法人会員特典としてのジャーナル閲覧制度の在り方再検討<br>黒字化に向けた財務体質の健全化（寄附・資産運用、会館賃貸事業等）<br>広告減収に対するテコ入れの実施（増収or維持への転換）<br>DX推進による組織・業務の変革（会員サービス向上、業務効率化等）                                     |





## 春季年会・CSJ化学フェスタ

本会では、春と秋に二大イベントを開催しています。

日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点を持った

様々な分野の研究者が一堂に会す化学系学会最大級のイベントです。

インターネットや文献などの情報収集ではできない「ディスカッション」「face to faceの情報交換」

「産学官の垣根を超えた人脈作りの場」として活用してもらうことを目的に開催しています。

### 春季年会

国内外から約 6,000 名の参加者と情報がダイナミックに交わる国内最大級の学術イベントとして、毎年 3 月下旬に 4 日間連続で開催されます。講演件数は約 4,000 件に上り、約 50 の会場で実施されます。最先端の化学技術に関する情報を密に、深く、広く、得ることができるほか、研究分野を超えて集い交流する場となっています。第 102 春季年会は現地開催を目指して準備を進めてきましたが、COVID-19 の影響により、前年に引き続きオンラインでの開催となりました。しかしながら、各会場で活発な議論が行われました。また、年会改革のもと、各方面で従来の運営から少しずつ変化を取り入れ、発表者、聴講者双方にとって魅力ある内容を目指しています。



#### 2022年度開催実績

##### ● 第 102 春季年会

参加者数：5,912 名

講演件数：3,951 件

会場：オンライン開催 (Zoom)

※ 2023 年 3 月開催の第 103 春季年会は 4 年ぶりに現地で開催する事ができました。詳細は来年度のアニュアルレポートにて報告いたします (本会は 3 月から新年度のため)

## CSJ 化学フェスタ

2011 年の世界化学年に秋季事業の一環として「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を目的にスタートしました。毎年 10 月中旬～下旬に 3 日間連続で開催され約 3,000 名が参加します。参加者は産学官それぞれの立場から「エネルギー・資源・環境」、「新素材」、「バイオ」分野などの最新の化学と技術を紹介する約 200 件のテーマ企画講演および約 1,000 件の学生ポスター発表を聴講できます。第 12 回を迎えた 2022 年は、東京・江戸川区のタワーホール船堀にて感染対策をした上で 3 年ぶりに現地開催をしました。久しぶりの現地開催ということで、例年以上に熱心に討論や交流が行われました。今後も、産学官がさらに交流を深めていけるよう様々な挑戦をしていく予定です。

### 2022年度開催実績

#### ● 第 12 回 CSJ 化学フェスタ

参加者数：2,617 名

講演件数：1,126 件

会場：タワーホール船堀（東京都）



## 市民に開かれた講座

春季年会、CSJ 化学フェスタでは会員向けだけでなく、市民の皆さまに向けた講座を開催しています。普段、化学に関わりのない一般市民の方々に化学にもっと親しみを持ってもらおう、化学の有益性を知ってもらおうということが目的です。子供向けの講座は特に人気で毎回定員を超える応募を頂戴しています。

A poster for the CSJ Chemistry Festa 2022 public lecture. The poster features a blue background with white and yellow text. It includes the title "医・食・住に貢献するかがく" (Lectures contributing to medicine, food, and housing) and the date "2022 3.25 (FRI) 13:00-15:40". It also mentions "参加費無料" (Free admission) and "オンライン開催 (Zoom)" (Online event via Zoom).

春季年会市民講座

A poster for the CSJ Chemistry Festa 2022 public lecture. The poster features a white background with blue and yellow text. It includes the title "「きれい」をつくる化学を知ろう!" (Let's learn about the chemistry that creates 'clean'!) and the date "2022 10/20 (木) 13:30-17:35". It also mentions "参加無料" (Free admission) and the venue "タワーホール船堀 5階 小ホール(A会場)" (Tower Hall Shipkari 5th floor Small Hall (A Venue)).

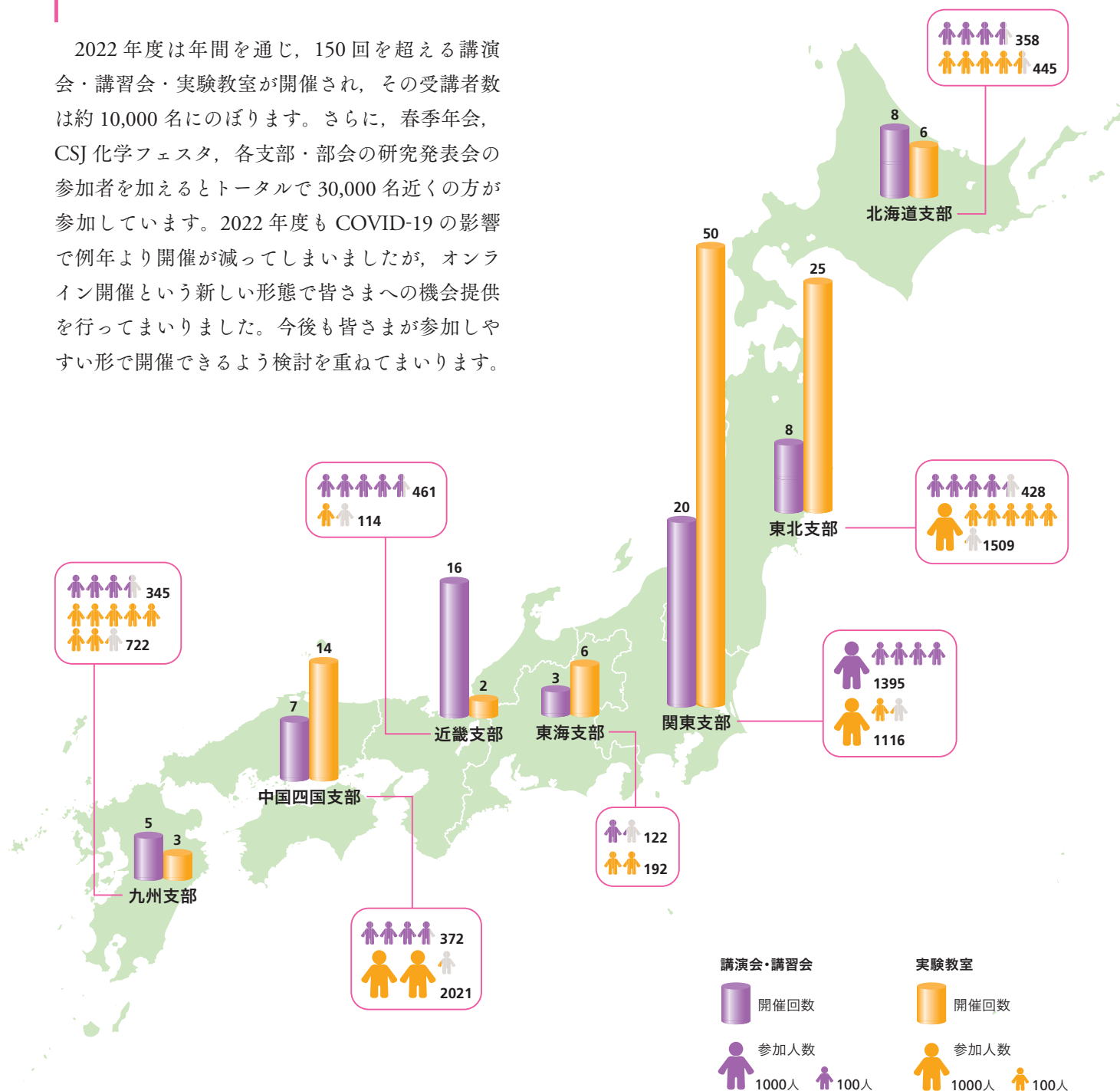
CSJ 化学フェスタ公開講座

# 講演会・講習会・実験教室の開催

変化の激しい現代社会では、最新の専門知識が求められる一方、その高度な専門知識を活かすだけの基礎知識も求められるという二面性を持っています。前述の春季年会、CSJ 化学フェスタ以外にも、研究者、教育者にとって有益な情報をもたらす機会を全国規模で多く提供しています。

## 講演会・講習会・実験教室

2022 年度は年間を通じ、150 回を超える講演会・講習会・実験教室が開催され、その受講者数は約 10,000 名にのぼります。さらに、春季年会、CSJ 化学フェスタ、各支部・部会の研究発表会の参加者を加えるとトータルで 30,000 名近くの方が参加しています。2022 年度も COVID-19 の影響で例年より開催が減ってしまいましたが、オンライン開催という新しい形態で皆さまへの機会提供を行ってまいりました。今後も皆さまが参加しやすい形で開催できるよう検討を重ねてまいります。





## R&D 懇話会

先端化学技術の話題について、2名の講師に講演いただく小規模セミナーです。講演会および意見交換会で、講師・参加者および参加者相互の交流深耕を図ることも大切な目的のひとつです。今後は現地開催での講演会に加え、参加者の方々にご好評をいただいている研究所の見学会も企画していく予定です。

### 2022年度開催実績

開催回数：6回

参加者数：209名

会場：オンライン開催（Zoomライブ配信）



## 化学技術基礎講座

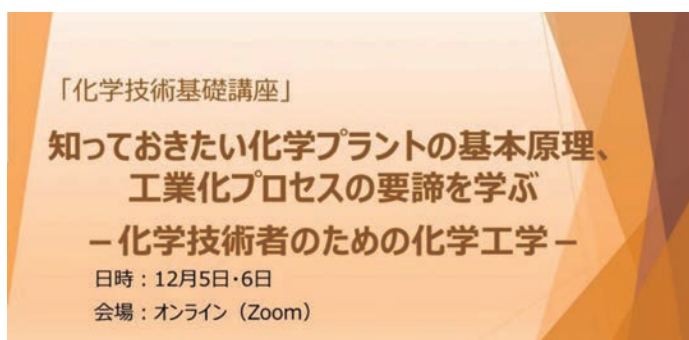
当該分野の知識習得が必要な企業の技術系新入社員、中堅技術者などを対象とした2日間の短期集中講座です。いずれの講座も分かりやすく丁寧な講義で受講者に好評です。本年はオンライン形式で開催し（ライブ配信とオンデマンドのハイブリット方式）、全国各地から多くの受講者に活用いただきました。

### 2022年度開催実績

開催回数：5回

参加者数：154名

会場：オンライン開催（Zoomライブ配信・オンデマンド配信）



## 化学安全スクーリング

化学実験を行う大学、研究所等の安全管理担当者、指導者や化学企業の研究所、プラント、生産現場で安全管理に関わるすべての方を対象とした化学実験に関わる安全と衛生に関して総合的に学ぶ毎年恒例の講習会です。ここで得られる情報は、参加者自身の安全管理はもちろんのこと、職場での安全教育、安全管理に活用されています。

### 2022年度開催実績

開催回数：1回

参加者数：43名

会場：ハイブリッド開催（現地& Zoomライブ配信）



# キャリア支援

「学生」「企業」「大学」、それぞれが  
face to faceで正しい情報を交換することが重要であるという考えのもと、  
キャリア支援事業を行っています。

## 企業現場見学会

2017年から学生会員を対象に企業現場見学会を開催しています。工場や研究所の見学やそこで働く方との交流を通じ、企業で働くイメージを持ってもらうことを目的としています。2022年度は3年ぶりに現地開催し、参加した学生からは「現地開催だったため、会社の雰囲気を実際に感じる事ができた。」「日本化学会会員限定のイベントのため、化学に特化しており大変参考になった。」というような感想を頂戴しています。

### 2022年度開催実績

- AGC 株式会社  
AGC 横浜テクニカルセンター (YTC) ……37 名
- 大阪有機化学工業株式会社  
大阪事業所 ……10 名
- 花王株式会社  
花王エコラボミュージアム ……19 名
- 三井化学株式会社  
袖ヶ浦センター ……20 名
- 三菱ケミカル株式会社  
Science & Innovation Center ……20 名



AGC 株式会社



大阪有機化学工業株式会社



三井化学株式会社

## キャリア座談会・研究講演会

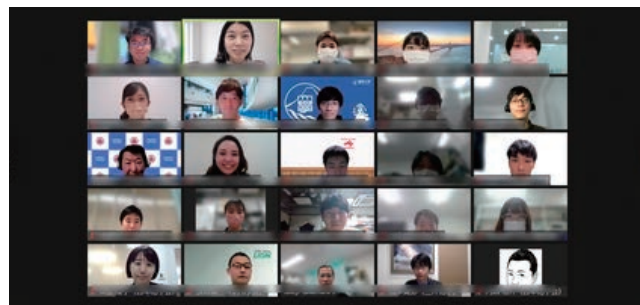
企業で活躍する先輩方と学生とがざっくばらんに質疑応答をするセミナーです。学生にとって自身のキャリア形成を考える良い機会となっています。また、企業側としても学生の不安や疑問を聞けるため、自社アピールのポイントを整理できると好評です。2022年度はオンラインで開催し全国各地の学生さんに参加いただきました。従来のキャリア座談会に加え、2022年度は新たな取り組みとして、博士課程進学を検討している学生に向けた座談会も開催しました。「様々な企業の社員の方の話を聞いて、自分が将来企業で働くイメージがより具体的になった。」というような感想を頂戴しています。

## 就職交流会

就職交流会は、大学の就職担当教員と企業人事担当者の情報交換を目的に毎年冬に開催されています。参加者からは「オンラインのため、遠方からも参加しやすく効率的に情報交換をすることができた」（大学関係者）「様々な大学の担当者と交流し、情報交換をすることができた」（企業関係者）といった感想を頂戴しています。

## 企業研究セミナー・合同説明会

就職活動の効率化・短期化を目的に「化学」に特化し開催するもので、法人会員の企業、化学系等専攻の学部生・大学院生が多数参加します。企業、学生のマッチングの場として、高い評価を得ています。



### 2022年度開催実績

開催回数：3回

参加者数：47名

会場：オンライン開催 (Zoom)

#### ● キャリアデザイン研究講演会 (近畿支部)

化学系業界紹介イベント (9月 オンライン開催)

企業4社、学生約57名参加

本イベント (11,1月計2回 11月オンライン開催、1月対面開催)

企業13社、学生延べ約36名参加

イブニングイベント (9～11月計7回 オンライン開催)

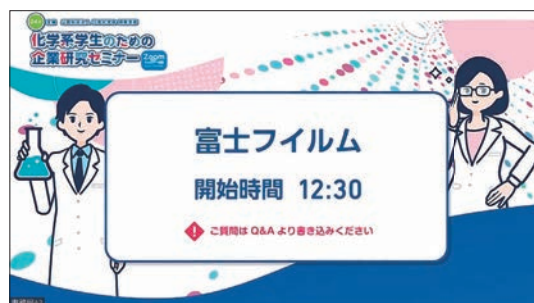
企業2社×7回、学生延べ約88名参加

### 2022年度開催実績

#### ● 第26回就職交流会

参加者数：60名超 (20大学、19社)

会場：オンライン開催 (Zoom)



化学系学生のための企業研究セミナー

### 2022年度開催実績

#### ● 化学系学生のための企業合同説明会 (関東支部)

会場：オンライン開催 (YouTube) 3月

参加企業：計26社

#### ● 化学系学生のための企業研究セミナー (関東支部)

参加企業：計26社

会場：オンライン開催 (Zoom ウェビナー) 2月

※一部企業はアーカイブにて公開あり



# 化学を広める・ 未来の化学者を育てる

お子さんから大人まで多くの方に化学を身近に感じてもらいたい、  
魅力を知ってもらいたい、という想いのもと、様々な取り組みを実施しています。

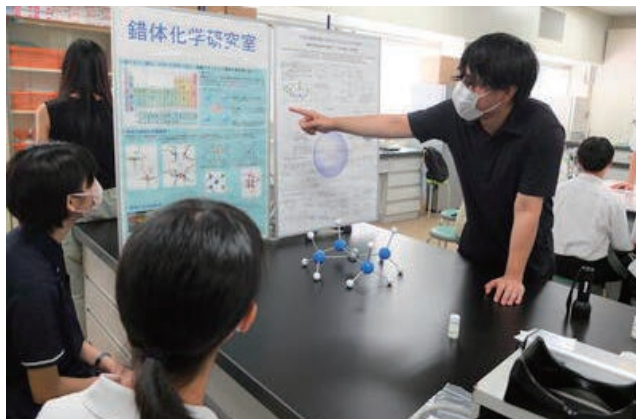
## 実験教室など

未来を担う子供たちに化学の面白さを知ってもらうため、日本各地で実験教室や講演会などを実施しています。学校ではできないような体験ができると大変好評です。

### 2022年度開催実績

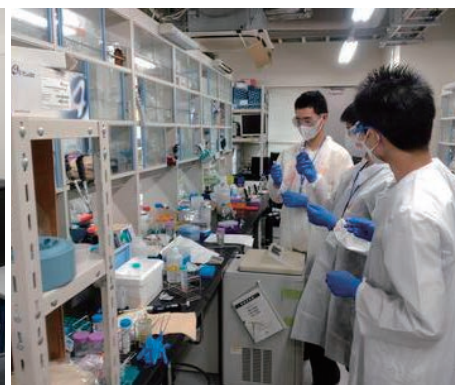
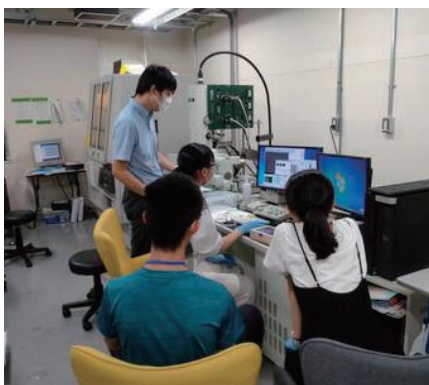
開催件数：約110件

参加人数：約6,200名



長崎大学オープンキャンパス（長崎県）

〔上・左〕旭川高専オープンキャンパス（北海道）〔上・中央、右〕東京大学1日体験化学教室（東京都）〔左下〕おもしろワクワク化学の世界'22 愛媛化学展（愛媛県）〔右下〕群馬高等学校体験授業（群馬県）





## 化学の日 (10月23日)

10月23日は化学の日です。この日はアボガドロ定数（1molの物質中に存在する粒子の数 =  $6.02 \times 10^{23}$ ）に由来します。2013年10月、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体は、化学および化学産業の魅力、社会への貢献などを広く知っていただきたいという想いのもと、10月23日を「化学の日」その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」と制定しました。この時期には日本各地で化学の日にちなんだイベントを開催しています。化学の理解拡大が進み、化学の道へ進む子供たちが増えることを望んでいます。

化学の日のグッズとして配布している周期表クリアファイル

## 缶バッジデザインコンテスト

「化学の日」を広める取り組みのひとつとして、2015年より毎年「化学の日缶バッジ」のデザインを公募しています。2022年は497名の方にご応募いただきました。（内訳：小学生の部28点、中学生の部209点、高校生の部113点、一般の部147点）

入賞作品は日本化学会ウェブサイトをご覧ください。

## 2022年缶バッジデザインコンテスト結果



最優秀賞 (バッジ作品)



優秀賞

## 中高生会員

2016年、化学に関心が高い中高生の皆さんのために「中高生会員制度」をスタートさせました。年会へ無料参加できるほか、メルマガで「化学と工業」「化学と教育」などのピックアップ記事や化学イベント情報も豊富に提供しています。ピックアップ記事・イベント情報は中高生会員専用のウェブサイトでご覧いただけます。

中高生会員特典



## 化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子どもたちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ってほしいという想いから2004年に発足しました。本事業は、多くの方のご支援のもと、寄付金で運営されています。

### 2022年度開催実績

ニュースレター発行：3回

体験型イベント：1件

参加人数：約40名

メンバー：3,555名



ニュースレター

## 化学グランプリ・ 国際化学オリンピック

1998年、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として「化学グランプリ」が開催されました。現在では3,000名を超える中高生の参加者が化学の力を競い合っています。また、本大会で選抜された日本代表生徒4名は毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加します。2023年はスイス（チューリッヒ）で開催される予定です。

### 2022年度開催実績

#### ● 化学グランプリ（COVID-19の影響でオンライン開催）

〔一次選考〕参加者数3,215名

〔二次選考〕参加者数73名

#### ● 第54回国際化学オリンピック中国大会

（COVID-19の影響でオンライン開催）

代表生徒4名参加

（金メダル4 84カ国・地域・他から326名参加）



〔上2枚〕強化合宿

〔中・下〕表敬訪問（経済産業省・文部科学省）



# 出版

1891年の「化学訳語集」刊行以降、様々な出版事業を行っています。  
機関誌・英文論文誌・書籍を発行し、社会の変化を捉えた誌面の充実、  
最新の研究や生活の中の化学を社会に届けるための情報発信に取り組んでいます。

## 化学と工業誌：最新情報を会員に

毎月1日に発行し、会員に配布しています。  
毎号、特集テーマとして化学や化学工業分野の最新情報を取り上げ、分かりやすく解説した記事を掲載しています。このほかに、注目トピックスのインタビューを扱った記事「OVERVIEW」、会員の紹介欄「CCI サロン」などを掲載しています。2022年度も前年に引き続き、コロナ禍で注目を集める mRNA ワクチンや特効薬に着目し、特集「今の RNA を化学の視点で考える」、CHEM × STORY「新型コロナウイルスの特効薬の作用機構」などを掲載しました。



## 化学と教育誌：教育現場に役立つ情報を

毎月20日に発行し、教育会員や教育学生会員等に配布しています。毎号、教育現場で役立つ化学実験の紹介や最新情報を分かりやすく解説した記事や会員からの投稿記事も審査の上掲載しています。2022年度は、炭素循環社会の実現を目指して今何が行われているかを「グリーンイノベーションの技術と化学」として2号にわたり特集をした他、教育現場で役立つ「新しい高等学校学習指導要領と化学教育」などの特集を実施しました。

## 様々な刊行物

日本化学会では、「化学便覧」「実験化学講座」「カレントレビュー」「化学の要点」など、数多くの書籍を編集・刊行しています。

### 2022年度出版物

- [化学の要点シリーズ41] バイオ医用高分子
- [CSJカレントレビュー43] 有機光反応の化学  
光が誘起する電子移動・触媒系・有機合成
- [CSJカレントレビュー44] モビリティ用電池の化学  
リチウムイオン二次電池から燃料電池まで





# 論文誌

英文誌2誌の発行を行い、2013年から科研費「国際情報発信強化」の支援を得て、編集体制の強化・質の高い論文の掲載・著者マーケティング・メールやSNSによる論文PRなどによる国際的な情報発信の強化に取り組んでいます。

## 世界から見えるジャーナルを目指して

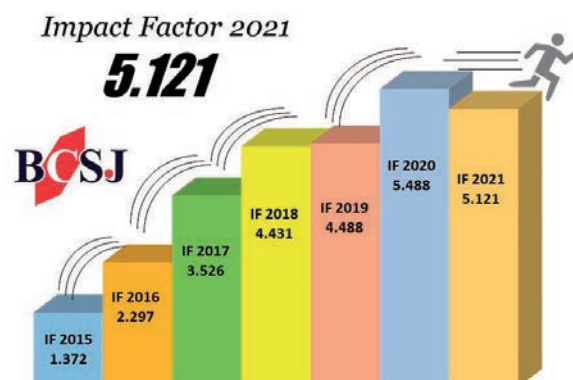
Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) (1926年創刊、現在96巻、年間300論文ほど掲載)とChemistry Letters (CL) (1972年創刊、現在52巻、年間400論文ほど掲載)を電子版で発行しています。世界から見えるジャーナルを目指して、メールでの論文PR、国際会議での広告掲載やフライヤーの配布、ジャーナル名を冠した賞の授与を行っています。2022年度は、BCSJではMasterpiece Materials with Functional Excellenceをテーマに、北川進先生をGuest Editorに迎え、有機材料、無機材料、超分子材料など多岐に及ぶ最先端の論文を45報掲載しました。CLでも、著名な先生や新進気鋭の若手のReview論文を掲載しました。



## Impact Factor (IF):

### BCSJで2年連続「5」を越える

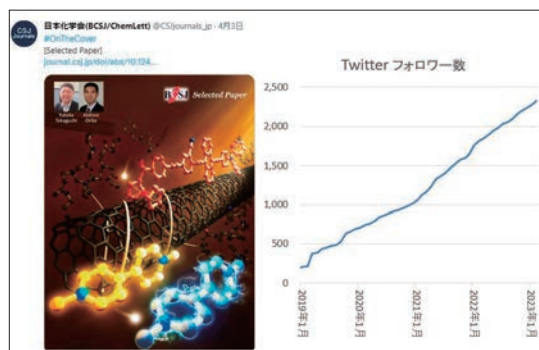
2022年に発表となったIFはBCSJが5.121で2年連続でIF5を越える結果となりました。CLは1.715となり、2年連続で上昇する結果となりました。



## メール配信や Twitter を利用して掲載論文を PR

個人会員（ディビジョン登録者）を対象に掲載論文情報の配信を開始。各ディビジョンに関連する内容の論文で、フリーアクセス論文を中心にお知らせしています。Twitter では、掲載論文情報や国際会議等でのジャーナル PR のお知らせを配信しています。フォロワー数は 2,200 名を越えました。「ジェンセン・レイダーの化学論文を書くための英語講座」の配信は順調で継続を予定しており、新たな企画の準備も進めています。

ぜひフォローをお願いいたします（Twitter アカウント @CSJjournals\_jp）。



論文 PR ツイート画像とフォロワー推移



Twitter での英語講座企画



論文 PR 配信メールのイメージ

## Account/Review Collection (BCSJ) と Highlight Review Collection (CL) の配布

質の高い Review 論文を多数掲載しており、これらの論文をより多くの研究者に認知してもらうために、タイトル、著者名、キーワード、アブストラクト、責任著者写真をまとめた小冊子 [Account/Review Collection (BCSJ) と Highlight Review Collection (CL)] を作成して広く配布を行いました。



# グローバル化

化学の世界で国際的に活躍できる人材育成, 研究推進を強力にサポートしています。  
また, 持続性社会の確立, SDGsの達成, 地球環境の保全などの課題に,  
基幹科学としての「化学」の後ろ盾を担う本会が「solution provider」として  
どのような貢献と解決策を提示できるか, 政策への提言やCS3 (Chemical Sciences and Society Summit) の場を  
通じて世界の化学会と協調して情報発信を行っています。

## 国際的連携・協調, 異文化交流

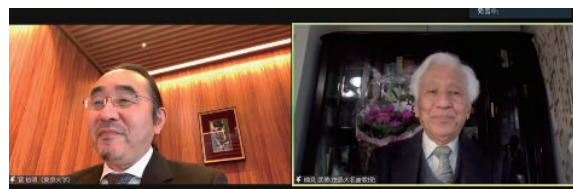
化学の国連ともいえるべき IUPAC<sup>※1</sup> や, アジア  
化学連盟; FACS<sup>※2</sup> との国際協調, また ACS<sup>※3</sup>  
と密接に連携し顕彰する Nakanishi Prize, RSC<sup>※4</sup>  
との二国間協定に基づく PCCP Prize 授賞選考,  
国際シンポジウムなどを行っています。また様々  
な国際会議に代表者を派遣し化学会の国際競争力  
の向上と認知度拡大に貢献しています。

※ 1 国際純正・応用化学連合

※ 2 Federation of Asian Chemical Societies

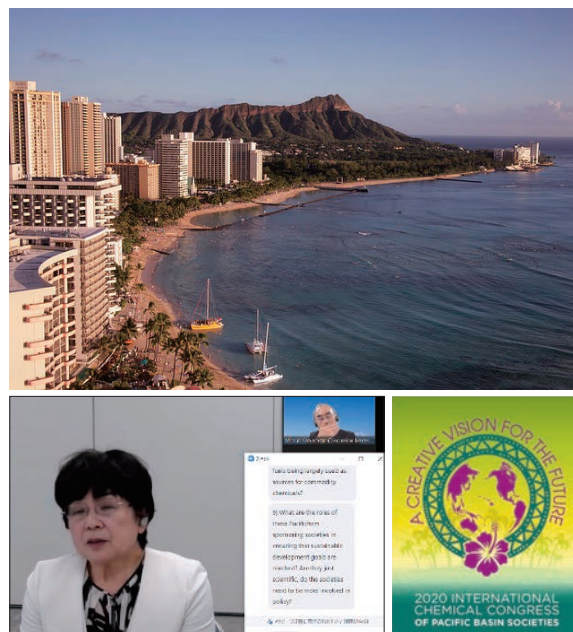
※ 3 アメリカ化学会

※ 4 英国王立化学会



## Pacificchem (環太平洋国際化学会議) の開催

5年に1度, 世界化学界の一大イベントであ  
る Pacificchem をハワイ・ホノルルで開催していま  
す。次回 2025 年の第 9 回はカナダがホスト国に  
なります。日米加の設立 3 学会に加え, 中韓豪  
および NZ の 7 化学会が共同主催し, 前回 2021  
年には世界 71 ヶ国・地域から約 8,700 名, 会期中  
平均視聴数 8,100 名超 (オンライン開催のため) の参  
加者を迎え, 10,000 件近い講演が行われました。  
次回 2025 年はテーマを Building Communities to  
Address Global Challenges とし 12 月 15 - 20 日の  
6 日間ホノルルで開催される予定です。





# 表彰事業

化学の基礎または応用に関する研究業績、並びに我が国の化学工業の技術開発、化学教育上の業績、本会活動への功績について、毎年各賞の選考委員会において厳正な選考が行われ、理事会の審議を経て決定、受賞者の表彰を行っています。

## 2022年度各賞受賞者（敬称略）

### 第75回日本化学会賞

今堀 博（京大院工）  
岩澤伸治（東工大）  
福岡 淳（北大触媒研）  
村井利昭（岐阜大工）  
村田道雄（阪大院理）  
山元公寿（東工大化生研）

### 第40回学術賞

阿部 竜（京大院工）  
依馬 正（岡山大院自然）  
大木靖弘（京大化研）  
大栗博毅（東大院理）  
尾坂 格（広島大院先進理工）  
薦巢 守（阪大院工）  
中尾佳亮（京大院工）  
三浦佳子（九大院工）  
山本洋平（筑波大数理物質）  
叶 深（東北大院理）

### 第72回進歩賞

浅子壮美（理研）  
久保田浩司（北大院工）  
シャン ルイ（東大院理）  
竹澤浩気（東大院工）  
塚本孝政（東工大化生研）  
鳥屋尾隆（北大触媒研）

新堀佳紀（東理大研究推進機構）

正井 宏（東大院総合文化）  
村山恵司（名大院工）

### 第11回女性化学者奨励賞

関根由莉奈（原子力機構）  
福山真央（東北大多元研）

### 第71回化学技術賞

佐藤万紀  
久保田冬彦  
形舞祥一  
金高慎也  
佐々井珠世  
（以上、東洋紡（株））  
増田正人  
松浦知彦  
石川達也  
船越祥二  
稲田康二郎  
（以上、東レ（株））

### 第28回技術進歩賞

市橋泰宜  
境野裕健  
（以上、東レ（株））

### 第47回化学教育賞

中田宗隆（農工大名誉）  
中村 聡（東工大名誉）

### 第40回化学教育有功賞

植田和利（広島市立基町高）  
近藤浩文（北海道札幌啓成高）  
高岸憲二（高知県立高知追手前高）  
西牧岳哉（長野県松本深志高）

### 第41回化学技術有功賞

工藤友美（東北大多元研）

### 第18回功労賞

植村 榮（京大名誉）

### 第2回長倉三郎賞

阿部 竜（京大院工）

# 社会に向けた様々な取り組み

時代の変化と共に学会に求められるものも変わります。  
本会においても、その変化に対応するべく様々な取り組みを行っています。

## 化学遺産関係

委員会への寄付を元に著名な化学者との対話冊子の作成や化学関連の文化遺産を調査、認定、発表をしています。2022年は4件が化学遺産に新規認定されました。

### 2022年度認定化学遺産

- 第061号 アジア初のノーベル化学賞：  
福井謙一関係資料
- 第062号 群馬大学理工学部染料コレクション
- 第063号 京都舎密局 関連資料
- 第064号 日本の無機フッ素化学品製造関係資料



群馬大学理工学部同窓記念会館内染料コレクション（一部）（群馬大学所蔵）



〔左〕棒状錫と明石名の包み紙（国際日本文化研究センター所蔵）  
〔右〕看板（京都府（京都文化博物館管理）所蔵）

## 各種提言

化学と工業9月号化学会発欄および化学と教育9月号会告欄に「科学（化学）的に正しい「炭素循環」を我が国が目指す社会の用語として使おう！」を発表しました。日本化学会は、この科学（化学）的に間違った言葉が使われることに強い懸念をもっており、科学（化学）的に正しい「炭素循環」という用語を使うことを強く求めたいと思います。





化学会発

科学（化学）的に正しい「炭素循環」を  
我が国が目指す社会の用語として使おう！

最近、温室効果ガス、特に二酸化炭素の削減を叫ぶ社会に定着していきことが世界の目標となっており、そのキーワードとして「カーボンニュートラル（脱炭素社会）」、「脱炭素社会」など、様々な用語が使われています。我が国でも、2021年6月2日に地球温暖化対策の推進に関する法律の改正が行われ、2050年までに地球温暖化ガスの排出を実質ゼロとする社会の実現を目指すことが定められました。化石資源の消費や呼吸などによって排出される二酸化炭素の量と、植物などによって固定される二酸化炭素の量との間に均衡が保たれ、温室効果ガスが一定量を維持されることを目指すことが求められています。

一方で、人類が環境を改善して持続可能な社会を築く言葉として、「脱炭素」がしばしばメディア記事、場合によっては政府の資料でも使われます。この言葉は科学（化学）的に適切でしょうか。「脱炭素」という言葉は、その目指す究極の到達点「炭素がなくなる」、「炭素がなくなった」状態と捉えられます。しかし、我々人間を含めたすべての生物は炭素を含んでいます。木材のような自然由来の物質にも炭素が含まれており、私たちの社会から炭素をなくすることは現実的ではありません。つまり、「脱炭素」という用語は、炭素のな

75.45 をご参照下さい。

経済」(英訳: Circular Carbon Economy) という用語を使うべきなのです。

次代を担う子供たちや社会に化学を正しく伝えることは日本化学会の重要な役割の一つです。例えば、中等教育においては、高等学校教科書と大学入試に使われている用語でその用法に疑問を感じるものについては日本化学会の委員会での検討をし、その「望ましい」用語や用法を提案してきました。事実、これらの提案は文部科学省の新しい学習指導要領にも反映されました。「脱炭素」という言葉は、これまで公的な文書でも用いられていたことがありますが、その結果として初

化学と工業9月号化学会発

## 吉野彰研究助成

リチウムイオン電池開発における革新的な功績により 2013 年度に The Global Energy Prize (2002 年にロシアで創設されたエネルギー分野のノーベル賞と云われる最も権威ある賞) を受賞された吉野 彰 氏 (旭化成株式会社, 日本化学会名誉会員) が, その報奨金をエネルギー, 環境, 資源分野の研究活動の活性化のために有効に使いたいとの思いから本会に寄付され, その基金を基に 2014 年度に「吉野彰研究助成事業」が創設されました。募集テーマについては毎年吉野先生自ら設定されております。

### 2022年度募集テーマ

- 『玄武岩と炭酸ガスとの反応機構に関する基礎的研究』  
助成対象者: 該当者なし



## 長倉三郎賞

2020 年 4 月に逝去された日本化学会元会長／名誉会員・長倉三郎先生のご遺族より, 化学の発展と後進の育成のためにと多額の寄付をいただきました。これに基づき, 本会は 2021 年度に長倉三郎賞を新設いたしました。この賞は, 研究・開発における業績の独創性と独自性を特に重視して未来の化学を担う将来性のある受賞者に授与される点等, 他の日本化学会各賞とは一線を画した新しい賞であり, 次世代の優れた化学者を育成し, 化学と日本化学会のさらなる発展に大きく寄与すると期待しております。

### 2022年度受賞者

- 第 2 回長倉三郎賞の受賞者  
氏名: 阿部 竜 (京都大学大学院工学研究科 教授)  
受賞題目: 表面修飾およびバンド制御に基づく可視光水分解用非酸化物系光触媒の創製  
副賞: 表彰楯, 1,000 万円 (使途や期間等の制限なし)



### 寄附のお願い

日本化学会各種事業は皆さまの寄付によって運営されています。  
ご賛同いただける方は日本化学会ウェブサイトあるいは会員ページよりご協力をお願いいたします。



# 企業・団体からのご支援

100口以上

Asahi**KASEI**

**KaO**



Color & Comfort

**DIC株式会社**

**'TORAY'**

**FUJIFILM**



**Mitsui Chemicals**



**MITSUBISHI  
CHEMICAL  
GROUP**

**三菱ケミカル株式会社**

50口以上

**AGC**

Your Dreams, Our Challenge

**kaneka**

**kuraray**

Possible starts here



**住友化学**

**DAICEL**

株式会社 **ダイセル**

**TEIJIN**



TOSOH

**東ソー株式会社**

**MARUZEN  
PUBLISHING**

**RESONAC**

## 10～49口

### 化学

(株) ADEKA  
荒川化学工業(株)  
(株) 大阪ソーダ  
関西ペイント(株)  
クミアイ化学工業(株)  
(株) クレハ  
興和(株)  
三洋化成工業(株)  
JSR(株)  
JNC(株)  
塩野香料(株)  
信越化学工業(株)  
住友精化(株)  
住友ベークライト(株)  
積水化学工業(株)  
セントラル硝子(株)  
高砂香料工業(株)  
デンカ(株)

### 東亜合成(株)

東洋インキSCホールディングス(株)  
(株) トクヤマ  
日亜化学工業(株)  
日油(株)  
日産化学(株)  
日鉄ケミカル&マテリアル(株)  
日本化学工業(株)  
日本化薬(株)  
(株) 日本触媒  
日本ゼオン(株)  
日本曹達(株)  
三菱ガス化学(株)  
UBE(株)  
ライオン(株)

### 医薬品

アステラス製薬(株)  
小野薬品工業(株)  
協和キリン(株)  
塩野義製薬(株)  
住友ファーマ(株)  
第一三共(株)  
田辺三菱製薬(株)  
中外製薬(株)  
Meiji Seika ファルマ(株)

### ゴム製品

(株) プリチストン  
横浜ゴム(株)

### 食料品

味の素(株)  
サントリーホールディングス(株)

### 石油・石炭製品

出光興産(株)  
ENEOS(株)

### 機械

ダイキン工業(株)

### 建設業

日揮ホールディングス(株)

### 公的研究機関

(国研) 理化学研究所

### 精密機器

(株) 島津製作所

### 電気機器

コニカミノルタ(株)  
パナソニックホールディングス(株)

### 非鉄金属

住友電気工業(株)

口数、業種別に50音順・敬称略(2023年4月1日現在)

他にも幅広い業種(電気・ガス、鉄鋼、パルプ・紙、輸送用機器等)を含む多くの企業・団体にご支援いただいています。

詳細は下記URLをご参照ください。(405社)

<https://www.chemistry.or.jp/societyguide/organization/corporationlist.html>

## 口数による主な会員特典

法人正会員の年間会費は、1口:25,000円で入会は4口以上からになっております。

年会会費の期間は、本会会計年度に合わせ3月から翌年2月とさせていただきます。

|     | 機関紙 <sup>※1</sup><br>「化学と工業」、「化学と教育」 | 論文誌 <sup>※2</sup><br>「BCSJ」、「CL」 | 当会主催イベント<br>参加費優遇人数 | 化学と工業<br>「求人欄」掲載 | 当会アニュアル<br>レポートへの | 春季年会予稿集を |
|-----|--------------------------------------|----------------------------------|---------------------|------------------|-------------------|----------|
| 15口 | 各2冊                                  | 両ジャーナル<br>同一法人内全てのIPで<br>閲覧可能    | 10人                 | 年3回無料            | 掲載                | 贈呈       |
| 10口 | 各1冊                                  | 両ジャーナル<br>複数事業所で閲覧可能             | 6人                  | 年1回無料            | 掲載                |          |
| 5口  | 各1冊                                  | 両ジャーナル<br>1事業所で閲覧可能              | 4人                  | 年1回無料            |                   |          |
| 4口  | 各1冊                                  | 1ジャーナル(選択)<br>1事業所で閲覧可能          | 2人                  | 年1回無料            |                   |          |

※1 お届け場所は複数指定可能

※2 論文誌に関する特典は、  
学術情報部までお問い合わせください。

基本特典：化学会館会議室の利用，各種イベントへの法人会員価格での出席，日本化学会編集刊行物の割引など

# 化学会概要

## 沿革

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 1878 年 | 化学会創立，翌年，東京化学会と改称       |
| 1898 年 | 工業化学会創立                 |
| 1921 年 | 東京化学会が日本化学会と改称          |
| 1941 年 | 社団法人に移行                 |
| 1948 年 | 日本化学会と工業化学会が合併          |
| 1978 年 | 創立 100 周年記念             |
| 1991 年 | 化学会館竣工                  |
| 2003 年 | 創立 125 周年記念（天皇皇后両陛下ご臨席） |
| 2011 年 | 公益社団法人に移行               |
| 2018 年 | 創立 140 周年               |
| 2020 年 | 化学会館改修                  |

## 会員（2023 年 2 月末現在）

約 2.3 万人の会員を擁し，国内自然科学系の学会としては最大の規模を誇る。法人正会員は 413 法人。

| 会員種   |        |
|-------|--------|
| 個人正会員 | 16,013 |
| 学生会員  | 4,693  |
| 中高生会員 | 51     |
| 教育会員  | 1,443  |
| 名誉会員  | 64     |
| 法人正会員 | 405    |
| 公共会員  | 286    |
| 合計    | 22,955 |

## 目的・事業

### （目的）

本会は，化学に関する，学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及，並びにそれを担う人材の育成を図り，もって社会の発展に寄与することを目的とする。（定款第 3 条）

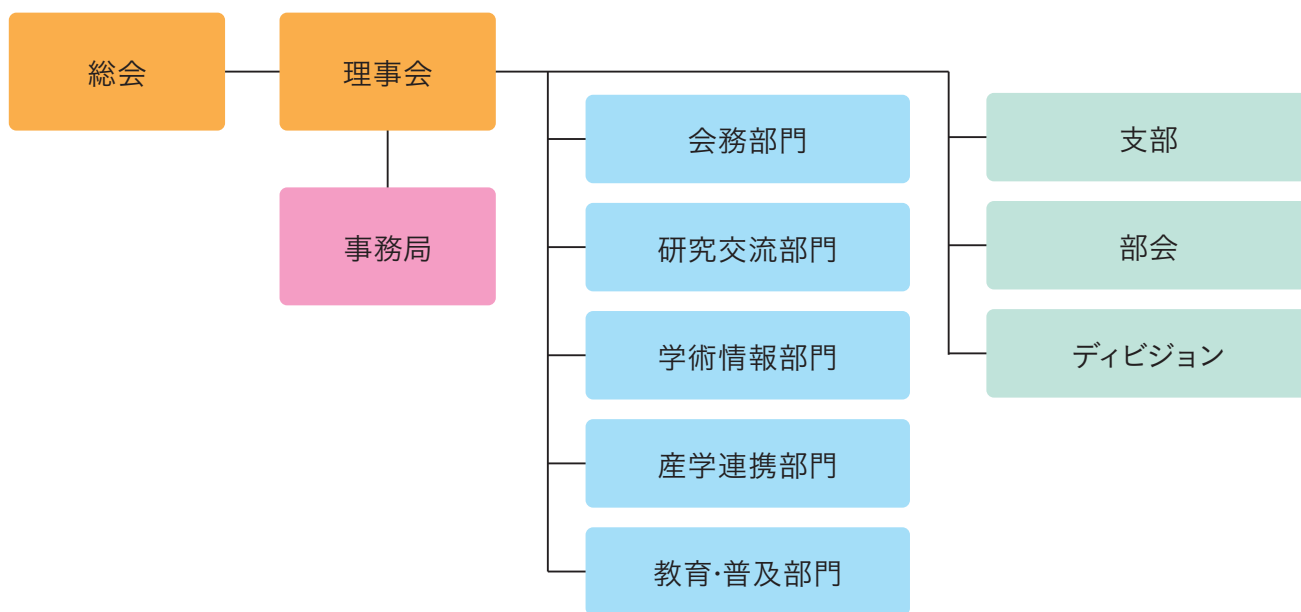
### （事業）

本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
  - (2) 会誌並びに学術図書の刊行
  - (3) 内外の関連学協会との連携，協力
  - (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
  - (5) 産学，産産交流並びに連携の推進など産業の振興に資する事業
  - (6) 化学知識の普及に資する事業
  - (7) 化学教育の振興など人材の育成に資する事業
  - (8) 化学の振興に関する政策提言
  - (9) 科学及び技術に関する調査，研究
  - (10) 科学及び技術に関する研究の助成
  - (11) その他本会の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は，日本全国及び海外において行うものとする。（定款第 4 条）



## 組織図



## 役員 (2023年5月25日現在)

|       |                     |    |                     |
|-------|---------------------|----|---------------------|
| 会長    | 菅 裕明 (東京大学)         | 理事 | 小西克明 (北海道大学)        |
|       |                     | 理事 | 坂井隆也 (花王(株))        |
| 筆頭副会長 | 高田十志和 (広島大学)        | 理事 | 櫻井英博 (大阪大学)         |
|       |                     | 理事 | 佐藤啓文 (京都大学)         |
| 常務理事  | 澤本光男 (中部大学)         | 理事 | 杉本直己 (甲南大学)         |
|       |                     | 理事 | 鈴木隆之 (東京電機大学)       |
| 副会長   | 相田美砂子 (広島大学)        | 理事 | 関根千津 (株)住化技術情報センター) |
| 副会長   | 阿部晃一 (東レ(株))        | 理事 | 平田裕人 (トヨタ自動車(株))    |
| 副会長   | 近藤輝幸 (京都大学)         | 理事 | 宮村一夫 (東京理科大学)       |
| 副会長   | 酒井浩志 (株)レゾナック)      | 理事 | 森 初果 (東京大学)         |
| 副会長   | 鈴木孝治 (JSR (株) JKIC) | 理事 | 和田健彦 (東北大学)         |
|       |                     | 理事 | 渡辺 淳 (デンカ(株))       |
| 理事    | 石井洋一 (中央大学)         | 監事 | 石谷 治 (東京工業大学)       |
| 理事    | 魚住泰広 (分子科学研究所)      | 監事 | 五十嵐仁一 (ENEOS 総研(株)) |
| 理事    | 氏家誠司 (大分大学)         | 監事 | 辻 康之 (京都大学名誉教授)     |
| 理事    | 海老原昌弘 (岐阜大学)        | 監事 | 村上洋太 (北海道大学)        |
| 理事    | 金井 求 (東京大学)         |    |                     |
| 理事    | 北川尚美 (東北大学)         |    |                     |
| 理事    | 熊本卓哉 (広島大学)         |    |                     |

計 31 名

# 会計報告 (2022 年度)

## 貸借対照表 (要約版)

2023 年 2 月 28 日現在

| 科目          | (単位：千円)   |
|-------------|-----------|
| 〈資産の部〉      |           |
| 流動資産        | 256,066   |
| 固定資産        | 2,152,758 |
| 基本財産        | 621,812   |
| 特定資産 (負債対応) | 195,997   |
| 特定資産 (指定)   | 574,941   |
| 特定資産 (一般)   | 285,760   |
| その他固定資産     | 474,248   |
| 資産合計        | 2,408,824 |
| 〈負債の部〉      |           |
| 流動負債        | 242,373   |
| 固定負債        | 220,949   |
| 負債合計        | 463,322   |
| 〈正味財産の部〉    |           |
| 指定正味財産      | 574,942   |
| 一般正味財産      | 1,370,560 |
| 正味財産合計      | 1,945,502 |
| 負債及び正味財産合計  | 2,408,824 |

## 正味財産増減計算書 (要約版)

2022 年 3 月 1 日～2023 年 2 月 28 日

| 科目          | (単位：千円) |
|-------------|---------|
| 〈経常収益〉      |         |
| 受取会費等       | 250,867 |
| 補助金・寄付金等収益  | 157,722 |
| イベント関連収益    | 130,838 |
| 賃貸関連収益      | 119,885 |
| 購読・印税等収益    | 97,130  |
| 広告掲載収益      | 49,127  |
| 運用等収益       | 18,192  |
| その他収益       | 11,154  |
| 経常収益 計      | 834,915 |
| 〈経常費用〉      |         |
| 事業費         | 713,317 |
| 管理費         | 54,312  |
| 経常費用 計      | 767,629 |
| 投資有価証券評価損益  | -4,227  |
| 当期経常増減額     | 63,059  |
| 法人税等        | 70      |
| 当期一般正味財産増減額 | 62,989  |

## 受取補助金内訳

| 交付者                | (単位：千円) |
|--------------------|---------|
| 日本学術振興会 (国際情報発信強化) | 35,300  |
| 徳山科学技術振興財団 他       | 6,383   |
| 計                  | 41,683  |

## 受取寄付金内訳

|             | (単位：千円) |
|-------------|---------|
| 化学振興事業      | 6,037   |
| 化学だいすきクラブ事業 | 3,189   |
| 化学遺産事業      | 968     |
| 計           | 10,194  |

# ノーベル賞受賞会員



©\*The Nobel Foundation.

2019年  
受賞

## 化学賞

吉野 彰

受賞理由: リチウムイオン電池の開発

1999年 化学技術賞受賞

2015年  
受賞

## 生理学・医学賞

大村 智

受賞理由: 線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見

2014年  
受賞

## 物理学賞

天野 浩

受賞理由: 高輝度青色発光ダイオードの発明

2014年  
受賞

## 物理学賞

赤崎 勇

受賞理由: 高輝度青色発光ダイオードの発明

2010年  
受賞

## 化学賞

根岸英一

受賞理由: 有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング

1999年 日本化学会賞受賞

2010年  
受賞

## 化学賞

鈴木 章

受賞理由: 有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング

1989年 日本化学会賞受賞

2008年  
受賞

## 化学賞

下村 脩

受賞理由: 緑色蛍光タンパク質の発見とその応用

2002年  
受賞

## 化学賞

田中耕一

受賞理由: 生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

2001年  
受賞

## 化学賞

野依良治 (日本化学会 元会長)

受賞理由: 不斉触媒による水素化反応の研究  
1985年 日本化学会賞受賞

2000年  
受賞

## 化学賞

白川英樹

受賞理由: 導電性高分子の発見と開発

1981年  
受賞

## 化学賞

福井謙一 (日本化学会 元会長)

受賞理由: 化学反応過程の理論的研究





公益社団法人  
**日本化学会**

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5  
TEL: 03-3292-6161 FAX: 03-3292-6318  
<https://www.chemistry.or.jp/>

デザイン: 株式会社マツダオフィス  
印刷: 三永印刷株式会社

2023.06.



公益社団法人 日本化学会

**化学会館**

JR 中央線・総武線 ▶ 「御茶ノ水」駅 御茶ノ水橋口 [徒歩 3 分]

地下鉄丸の内線 ▶ 「御茶ノ水」駅 出口 2 [徒歩 4 分]

地下鉄千代田線 ▶ 「新御茶ノ水」駅 出口 B1 [徒歩 5 分]